

外国につながる児童生徒への支援について

学校教育課 教育センター【みらい】

1 最近の実態

- ・母語の定着が不十分であり、母語指導や初期の日本語指導に多くの時間を必要とする児童生徒が増えている。特に低学年には母語の読み書きができない児童もいる。教育センターでの就学ガイダンス後、就学までに時間がかかるケースが増えている。
- ・国内移動で転入してくる児童生徒の中にも、不登校や母語の定着が不十分で、学校への適応や学習の定着が心配な児童生徒がいる。
- ・外国につながる園児が増えており、市立幼稚園でも子供や保護者の対応が必要になっている。日本生まれや乳幼児期での来日も多い。

2 最近の実態から生じている最も大きな課題と対応策

(1) 最も大きな課題

- 子供の母語定着不足

(2) その要因

- 子供の母語習得の重要性の認識が十分でない親がいること

(3) 対応策

- ①学齢期前のできるだけ早い時期から継続的に親への啓発活動を行う。
同時に、支援活動も行う。
- ②まずは乳幼児（6か月、1年6か月、3歳児）健診の機会を活用したい
 - (ア)健康づくり課との情報共有
 - (イ)生後2か月の全戸訪問の機会に資料配付…健康づくり課から提案
 - (ウ)関わる課職員への専門家による講話等計画…教育センターから提案予定
- ③乳幼児健診以降、入学までの期間の継続的な啓発活動

他課との
連携

資料

①母語の重要性について *下線は加筆

- ・キャリア教育や相談支援などを包括的に提供することや、子供たちのアイデンティティの確立を支え、自己肯定感を育むとともに、家族関係の形成に資するよう、これまで以上に母語、母文化の学びに対する支援に取り組むことも必要である。

【中教審答申（R3.1.26） 第Ⅱ部 各論 5 増加する外国人児童生徒への教育の在り方について】

②子供の母語習得・日本語習得方法について

		乳幼児期・学齢期前	学齢期（就学前）	学齢期（就学後）
母語 習得方法	フィリピン	家庭 プレスクール 自助グループ	家庭 プレ教室 自助グループ	家庭 自助グループ
	フィリピン以外	家庭 自助グループ	家庭 自助グループ	家庭 自助グループ
日本語 習得方法	フィリピン	母語の土台があれば、指導をしなくても、		学校での初期指導・継続指導
	フィリピン以外	支援を受けながら身に付けることが可能		

3 新規転入児童生徒の状況

(1) 教育センターでの就学ガイダンスについて

- ・本市に直接入国してきた児童生徒に対し、就学ガイダンスを行い、母語や日本語の習得状況、学習履歴等について聞きとりを実施している。
- ・対象児童生徒の状況により、2回、3回と就学ガイダンスを重ねる場合がある。プレ教室を経て、学校に就学する前には、学校ガイダンスを行っている。

(2) 教育センターでの就学ガイダンスを実施した人数 (R6. 12. 18 現在) (単位: 人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
フィリピン	1	9			6	4	5	6		31
ベトナム			1	1						2
中国		1					1			2
モンゴル	1									1
カナダ							1			1
ネパール									1	1
人数	2	10	1	1	6	4	7	6	1	38

(3) 就学ガイダンス後の児童生徒の状況 (R6. 12. 18 現在) (単位: 人)

状 況	詳 細
プレ教室	小学生 (9)、中学生 (7) 【計 16】
小学校編入	焼津東小 (1)、焼津西小 (1)、東益津小 (1)、港小 (3)、大井川南小 (3) 【計 9】
中学校編入	大村中 (1)、豊田中 (1)、小川中 (1)、大井川中 (7) 【計 10】
その他	プレ教室準備 (2)、ガイダンス実施中 (1) 【計 3】

(4) 成果

- ・就学ガイダンス、プレ教室の経験を経て編入した児童生徒たちは、編入先の各小中学校で、不適応を起こすことなく学校生活を送ることができている。

4 支援員による支援状況

(1) 各学校での支援状況について

- ・日本語の初期指導 (1日 1~2時間) を4か月程度、その後、継続指導 (2週間に1時間程度) を実施して、児童生徒、学校の支援を行っている。

(2) プレ教室での支援状況について

- ・昨年度まで1人の支援員 (フィリピン出身バイリンガル) で運用していたため、十分な開催ができなかったが、今年度は、新たな支援員1人 (フィリピン出身バイリンガル) をスカウトできたため、ほぼ毎日、開催できている。さらに、補助する立場の支援員を2人配置し、充実した運用が行えている。

5 今後に向けて

- ・乳幼児から中学卒業後の進路まで切れ目のない支援を行うため、部局を越えた連携を進めていく。
- ・支援員の交友関係等も活用して、引き続きバイリンガル支援員の確保に取り組む。